



良い時期



川崎ゆき

「涼しくなってきましたなあ」

「過ごしやすくなりましたよ。もう暑いのは去りましたからね」

「朝方ひんやりとして、寒いときもありますなあ」

「寝る前、暑い日もありますよ。また少し夏が残っています」

「しかし、もうすっかり秋です」

「はい、過ごしやすい時期は短いですが」

「そうですね、秋はすぐに行ってしまうたりしますなあ。夏の次にいきなり冬だったりした年も」

「そんな年はないでしょ」

「いやいや、三年前なんて、夏が長引いて秋の中程まで暑かったでしょ。それで、そのあと急激に寒くなった。涼しさを飛び越えてね。あの年は秋がなかった。いやあったかもしれませんが二三日だ。ああ、秋かな、と思えた日はね」

「良い時期は短いということですか」

「良い時期ねえ」

「どの頃が良い時期でしたか」

「気候じゃなくて……ですかね」

「そうです」

「さあ、それは考えたこともないですが、あまり心配事がなかった時期でしょうかなあ」

「じゃ、子供の頃が一番良い時期と」

「まあ、子供の頃は不自由で、早く大人になりたかったので、そんなに良い時期だったとは思えませんよ」

「そうですか。じゃ、いつ頃ですか」

「さあ、金儲けが上手く行っているときは、良い時期でしょ。調子がいいので、多少悪い目、負の目に出合っても、勢いで乗り越えられますからなあ」

「今はどうですか」

「心配事が増えて、あまり良い時期だとは思えませんなあ」

「良い時期は、そんな心配事は乗り越えられるのでしょ」

「実際には良い時期ほど心配事が多かったはずなんですけどね。多すぎて麻痺していたんでしょうかな。一つの心配事に集中できませんでしたからね」

「しかし、今の方が心配事が少ないので、良い時期じゃないのですか」

「減った分、比重が高くなる。以前ならすっと流すような心配事でも、今なら暇なので、引っかかってしまう」

「年寄りの取り越し苦労というやつですか」

「ああ、そうかもしれませんなあ。結構のんびりと暮らしているはずなのですがね。小さな心配事が尽きない。規模は非常に小さいのですがね」

「以前は気にならなかったこと、気にしていなかったことが気になるとか」

「それもありますなあ。心配事を無理に見付けたりしているようなものですよ」

「それは大変ですねえ」

「そういった心配事のことを思い出すと、気が滅入るのですが、それらがなくなってしまうと、逆に困ってしまうかもしれませんよ」

「心配事は一つでも消えた方がいいのでは」

「心配事が何もなくなる。これは、本体がどうかしているんですよ」

「本体」

「本人の頭ですよ」

「ああ」

「まあ、その方がずっと良い時期を過ごせるでしょうがね。しかし、それが良い時期だなんて、本人には意識できないでしょう」

「良い季節なのに、暗い話、有り難うございました」

「いえいえ」

了